

特集

ラファエル・コランと黒田清輝

2019年1月22日(火)～4月14日(日)
東京国立博物館 黒田記念館 黒田記念室

Thematic Exhibition

Raphaël Collin
and
Kuroda Seiki

Kuroda Memorial Room, Kuroda Memorial
Hall, Tokyo National Museum
Tuesday, January 22—Sunday, April 14, 2019



オペラ=コミック座壁画「頌歌」のための素描

Sketch for Hymn
Mural painting of the Opéra Comique

ラファエル・コラン By Raphaël Collin

木炭・カンバス 1898年頃 80.0×49.9cm 黒田清輝旧蔵



リモージュ、オート＝ヴィエンヌ県庁 天井画のための下絵
Study for Ceiling Painting of Haute-Vienne Prefectural Government in Limoges

ラファエル・コラン By Raphaël Collin
油彩・紙 1911年頃 34.0×42.5cm 黒田清輝旧蔵

コランは1909～12年にかけて、リモージュ、オート＝ヴィエンヌ県庁「宴の間」の天井画を手がけました。その下絵のひとつである本作品は、右手で種を播きながら飛翔するギリシャ神話のヘルメス神を、農業の寓意として描いています。

甘美な女性像を得意としたフランスの画家ラファエル・コラン (1850～1916) は、黒田清輝 (1866～1924) ら日本近代の洋画家がフランス留学中に師事した人物として知られています。黒田が所蔵していたコランの下絵類が東京国立博物館に寄託されたのを機に、その一部をご紹介します。コランと黒田の絆を示す諸作であると同時に、1901 (明治34) 年の白馬会第6回展の折、黒田の《裸体婦人像》(静嘉堂文庫美術館) とともに腰部を隠して展示されたヌードデッサンも含まれており、日本近代美術を語る上で興味深い作品群といえるでしょう。あわせて、黒田記念館に伝えられたコラン初期の油彩画《裸婦》や、コランの影響が色濃くみられる黒田の作品も展示いたします。

The French painter Raphaël Collin (1850–1916) was particularly skilled at depicting seductive female figures. He is known as the artist under whom Western-style painters from modern Japan, including Kuroda Seiki (1866–1924), studied while they were in France. This Thematic Exhibition is being held to acknowledge recently acquired studies by Collin, which were once owned by Kuroda and have been entrusted to the Museum. The exhibition features some of those studies by Collin as well as relevant works by Kuroda that were strongly influenced by them. We hope that visitors are able to perceive the deep bonds between these two artists.



「晩夏」のための習作

Study for *End of Summer*

ラファエル・コラン By Raphaël Collin

油彩・カンバス 1888年頃 60.1×45.4cm 黒田清輝旧蔵

パリ大学学長公式アパートマンの食堂の壁を飾る作品として、1888年に制作された《晩夏》のための習作。完成作の背景で輪舞する3人の娘とポーズが一致します。画面右上にフランス語で「黒田清輝へ、心からの思い出をこめて R.コラン」と、署名および黒田清輝への献辞があります。同様に、コランに師事した洋画家久米桂一郎(1866～1934)への献辞がある《夏の野》も、《晩夏》の習作として描かれたものです。



三人の女下絵

Study for *Three Women*

ラファエル・コラン By Raphaël Collin

油彩・カンバス 1892年頃 61.8×42.2cm 黒田清輝旧蔵

画室で撮影された黒田清輝のポートレートには、2度目の渡欧(1900～01年)の際に制作され、帰国した年の白馬会第6回展に出品、物議を醸した《裸体婦人像》とともに、師ラファエル・コランの《三人の女下絵》および《夏の野》(久米美術館)が写り込んでいます。



参考図版1 夏の野

Summer Field

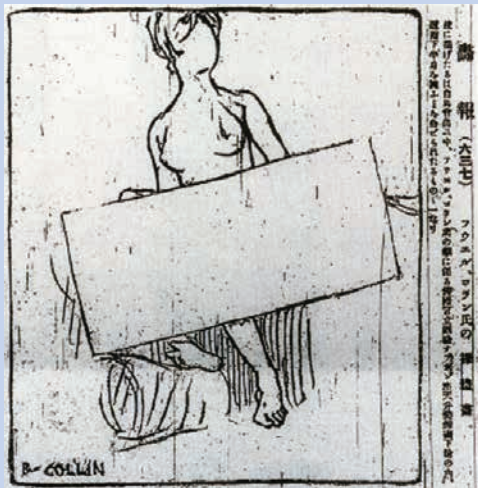
ラファエル・コラン By Raphaël Collin

1888年頃 東京・久米美術館



参考図版2 画室での黒田清輝

Kuroda Seiki in his studio



参考図版3 1901(明治34)年11月1日付『二六新報』より
From *Niroku shinpō* (November 1, 1901)

1897年、コランはパリ、オペラ=コミック座の装飾画制作を依頼され、翌年にかけてこれを完成させます。黒田はその装飾画制作の際に描かれた素描類を日本へ持ち帰り、1901年の白馬会第6回展に出品しました。ところが当時の日本では、裸体画の展示が公序良俗に反するとされ、《裸体婦人像》とともに警察による取り締まりを受け、腰部を隠して展示されました。当時の新聞『二六新報』は、その折の様子を図入りで伝えています。



オペラ=コミック座天井画「虚構に生気を与える真実」のための素描(1)

Sketch for *The Truth that Vitalizes Fictions* (I)
Ceiling painting of the Opéra Comique

ラファエル・コラン By Raphaël Collin
木炭・紙 1898年頃 60.0×49.9cm 黒田清輝旧蔵



オペラ=コミック座天井画
「虚構に生気を与える真実」のための素描(3)

Sketch for *The Truth that Vitalizes Fictions* (III)
Ceiling painting of the Opéra Comique

ラファエル・コラン By Raphaël Collin
木炭・紙 1898年頃 59.7×74.5cm 黒田清輝旧蔵



オペラ=コミック座天井画
「虚構に生気を与える真実」のための素描(2)

Sketch for *The Truth that Vitalizes Fictions* (II)
Ceiling painting of the Opéra Comique

ラファエル・コラン By Raphaël Collin
木炭・紙 1898年頃 59.8×37.9cm 黒田清輝旧蔵



ラファエル・コラン (1850 ~ 1916)

パリ生まれ。1868年、パリ国立美術学校に入学。1873年、《眠り》(フランス、ルーアン美術館)でサロン(展覧会)にデビューし、2等賞を受けた同作品は国家買い上げとなります。1880年代には、光あふれる自然のなかの裸婦や女性像を主題とした自己の様式を確立。名声の高まりとともに肖像画や壁面装飾の公的注文を受けるようになり、また黒田清輝、久米桂一郎、岡田三郎助(1869~1939)ら日本人留学生を指導しました。1889年、パリ万国博覧会でグランプリを受賞。1909年、フランス学士院美術アカデミー会員に選出。1911年にはパリ国立美術学校の絵画教室主任教授に就任しました。

ラファエル・コラン像

Portrait of Raphaël Collin

黒田清輝 By Kuroda Seiki

鉛筆・紙 1916年 21.8×14.4cm 東京国立博物館



裸婦

Nude, Female

ラファエル・コラン By Raphaël Collin
油彩・カンバス 1870年 88.0×168.4cm
東京国立博物館

コランのパリ国立美術学校在学中の作。横たわる裸婦のポーズは、当時のアカデミックな教育の中でしばしば見られるもので、同様のモチーフをサロンへのデビュー作となる《眠り》でも描いています。1924(大正13)年にフランス人美術商のエルマン・デルスニス(1882~1941)によって日本へもたらされ、「まどろみ」の題で同年の第3回仏蘭西現代美術展覧会に展示されました。